

十和田市の地域産業構造について

平成27年8月6日

十和田市役所政策財政課

総務省統計局「地域の産業・雇用創造チャート」を基に作成

<http://www.stat.go.jp/info/kouhou/chiiki/index.htm>

まちの産業を二つに分けて理解する

とあるまちの話

- まちにある衣服製造工場では、生地や糸を隣町から仕入れて、洋服を縫製しています
- **できあがった洋服のほとんどはまちの外に出荷され販売されます**
- ここで働いている人は、皆このまちに住んで生活しています

この衣服製造工場の従業者が生活していくために必要なものは？

スーパー コンビニ 銀行 個人病院 郵便局 美容院 学校 ……

こういった周りにあるお店の**顧客や施設の利用者はその地域の人々**

基盤産業

域外を主たる販売市場とした産業。一般的に農林漁業、鉱業、製造業、宿泊業、運輸業（特に水運）が該当。大都市では一部のサービス業もあてはまる。

非基盤産業

域内を主たる販売市場としている産業で、建設業、小売業、対個人サービス、公共的サービス、公務、金融保険業（支店、営業所）、不動産業などが該当。

基盤産業が非基盤産業を牽引する

- 地域の人口は基盤産業の規模に応じたものとなる

疑問：非基盤産業だけのまちというのはいり得るのか？

まちの労働者の全員が地域スーパーの従業員で、
地域スーパーにはそのまちの人しか買い物に来ない



スーパーの従業員の賃金は売上総額から仕入金額などを除いたものなので、
まちの人たちだけでは売上総額分の買い物ができない



地域スーパーの従業員以外の人がない限り
まちは存続しない

答え：あり得ない



地域の人口を1,000人増やすためには

- 地域全体の従業者数は基盤部門従業者数にほぼ比例する
地域全体の従業者数 = 基盤部門従業者数 × 6.5
- 就業者 1 人は平均して 2 人の生活を支えている
地域の人口 = 地域全体の従業者数 × 2



$$\text{地域の人口} = [\text{基盤部門の従業者数}] \times 13$$

人口を1,000人増やすためには、
基盤部門の雇用を新たに約77人分創出しなければならない

基盤産業を見つける(その1)

- 基盤産業を見つける簡便な方法として特化係数を用いる
- 特化係数とは ある地域の特定の産業の相対的な集積度、つまり強みを見る指数

具体例

岩手県釜石市の鉄鋼業の従事者比率（約3.6%）を
日本全体の鉄鋼業の従事者比率（約0.4%）で割った値（約8.7）が
岩手県釜石市の鉄鋼業の特化係数

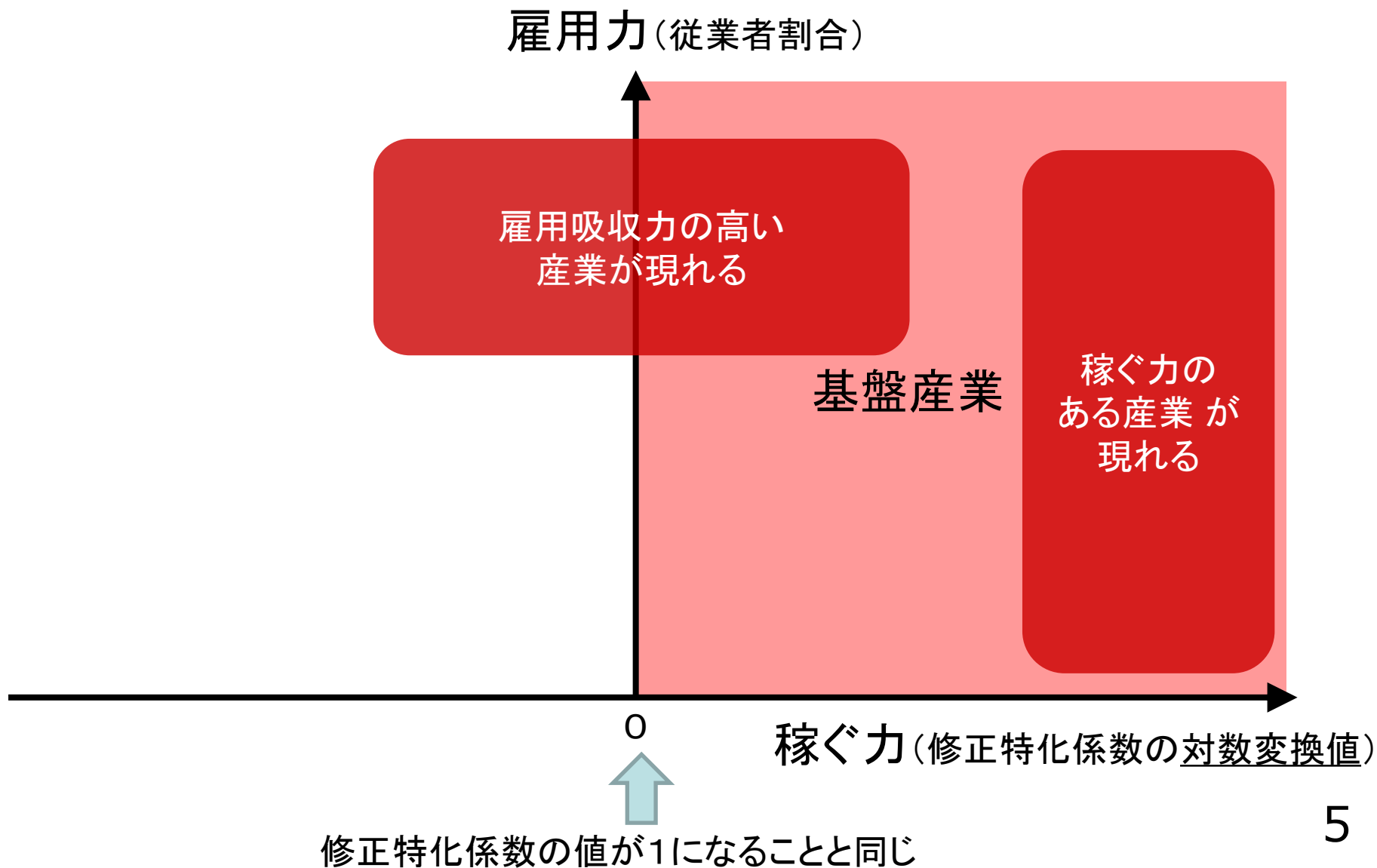


$$\text{地域における産業 A の特化係数} = \frac{\text{地域における産業 A の従事者比率}}{\text{全国における産業 A の従事者比率}}$$

特化係数 地域の産業の日本国内における強みを表したものの
修正特化係数 地域の産業の世界における強みを表したものの

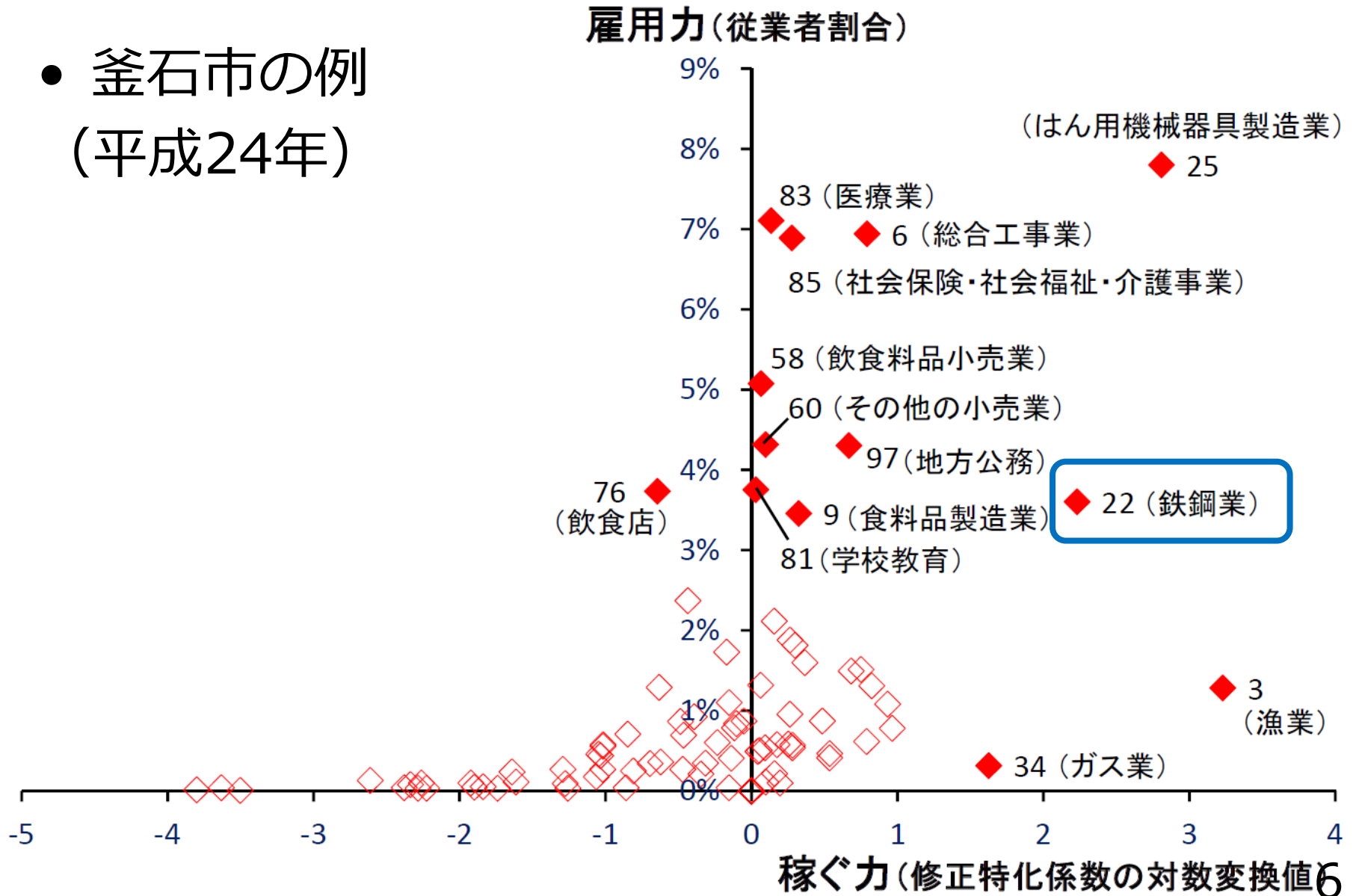
大まかに言えば、修正特化係数が 1 を超える産業が基盤産業であり、
修正特化係数とは地域の稼ぐ力なのです。

基盤産業を見つける(その2)



基盤産業を見つける(その3)

- 釜石市の例
(平成24年)



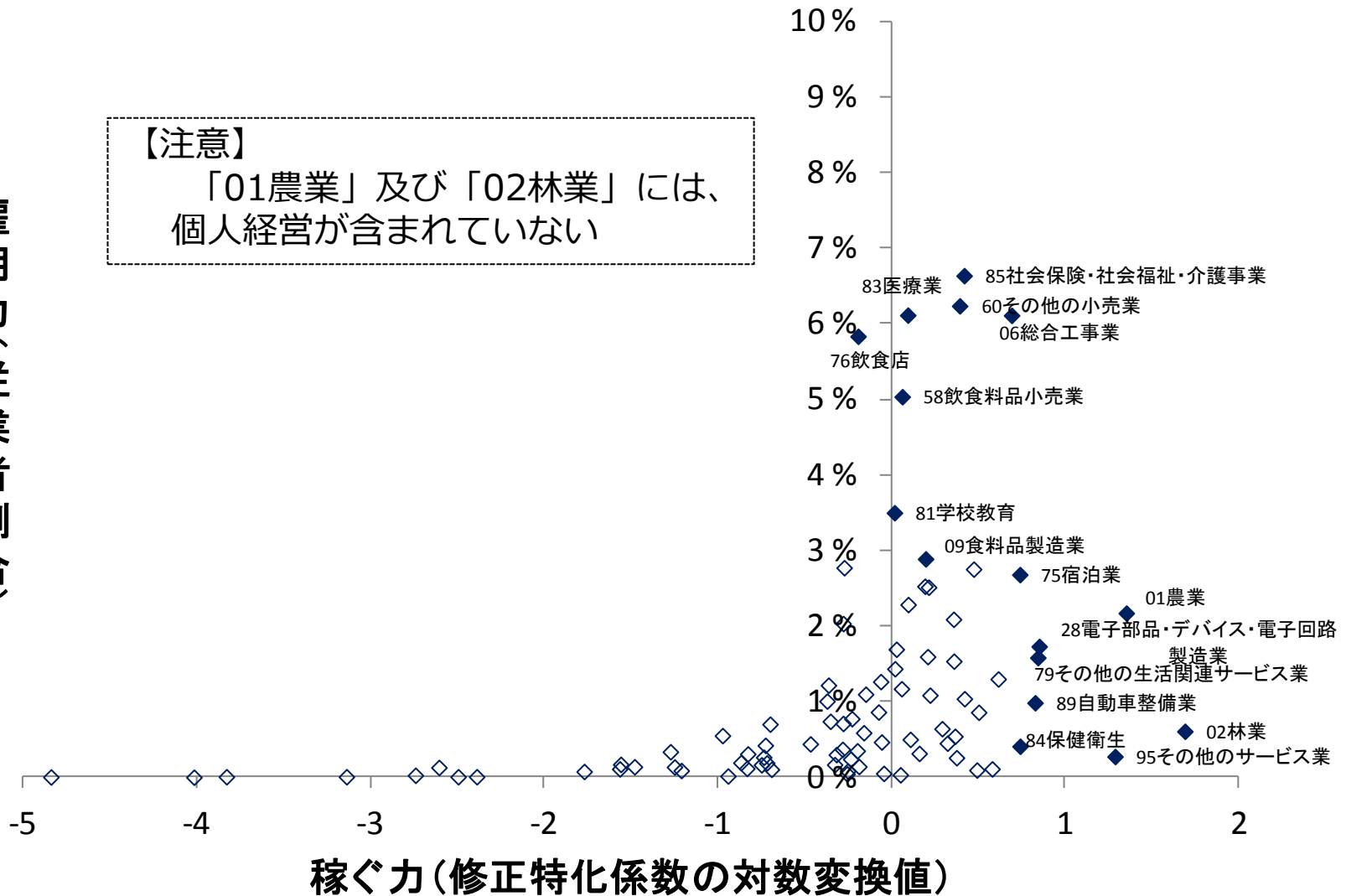


十和田市（平成21年）

雇用力（従業者割合）

【注意】

「01農業」及び「02林業」には、
個人経営が含まれていない



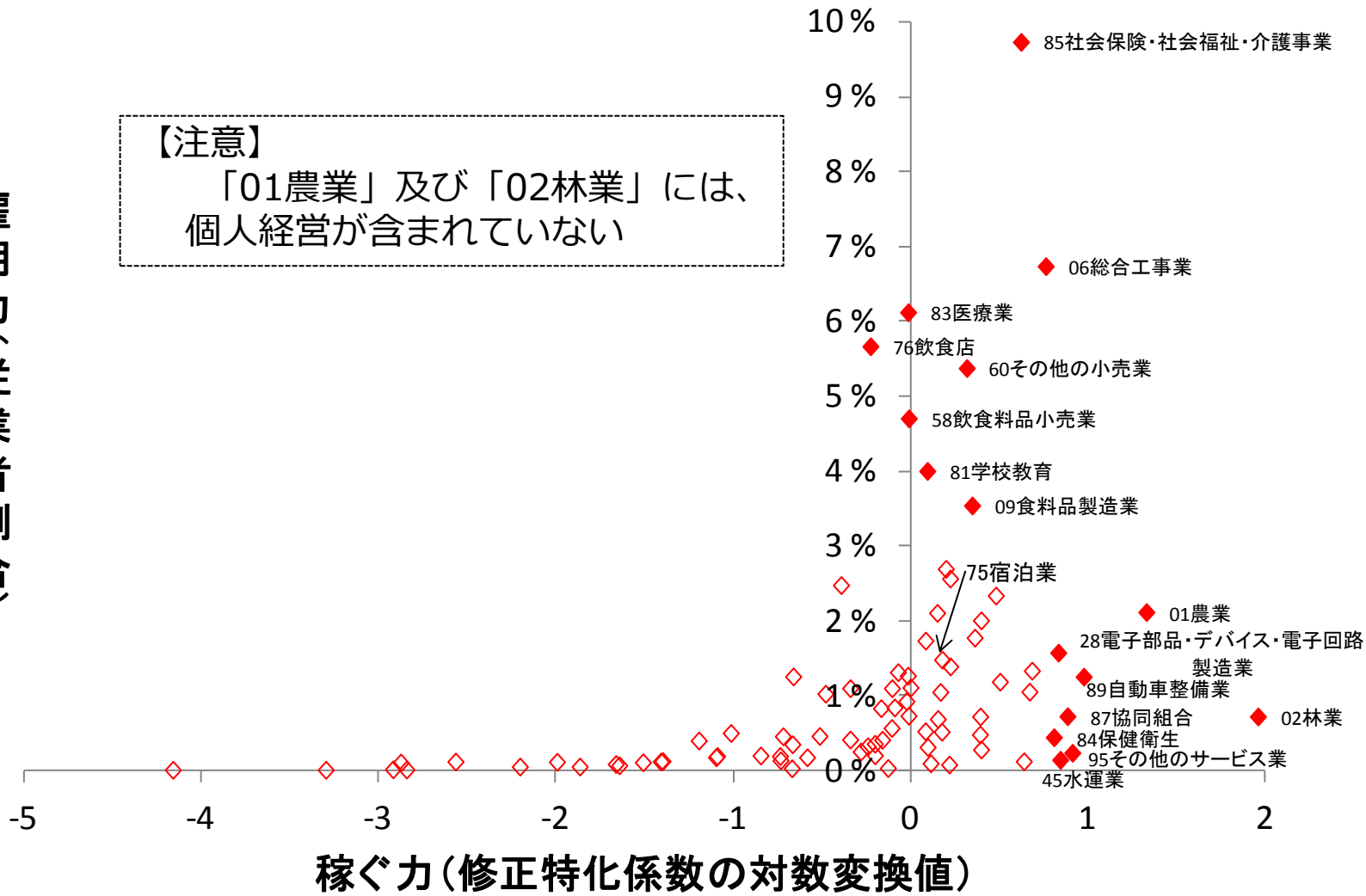
※出典：総務省統計局「地域の産業・雇用創造チャート」



十和田市（平成24年）

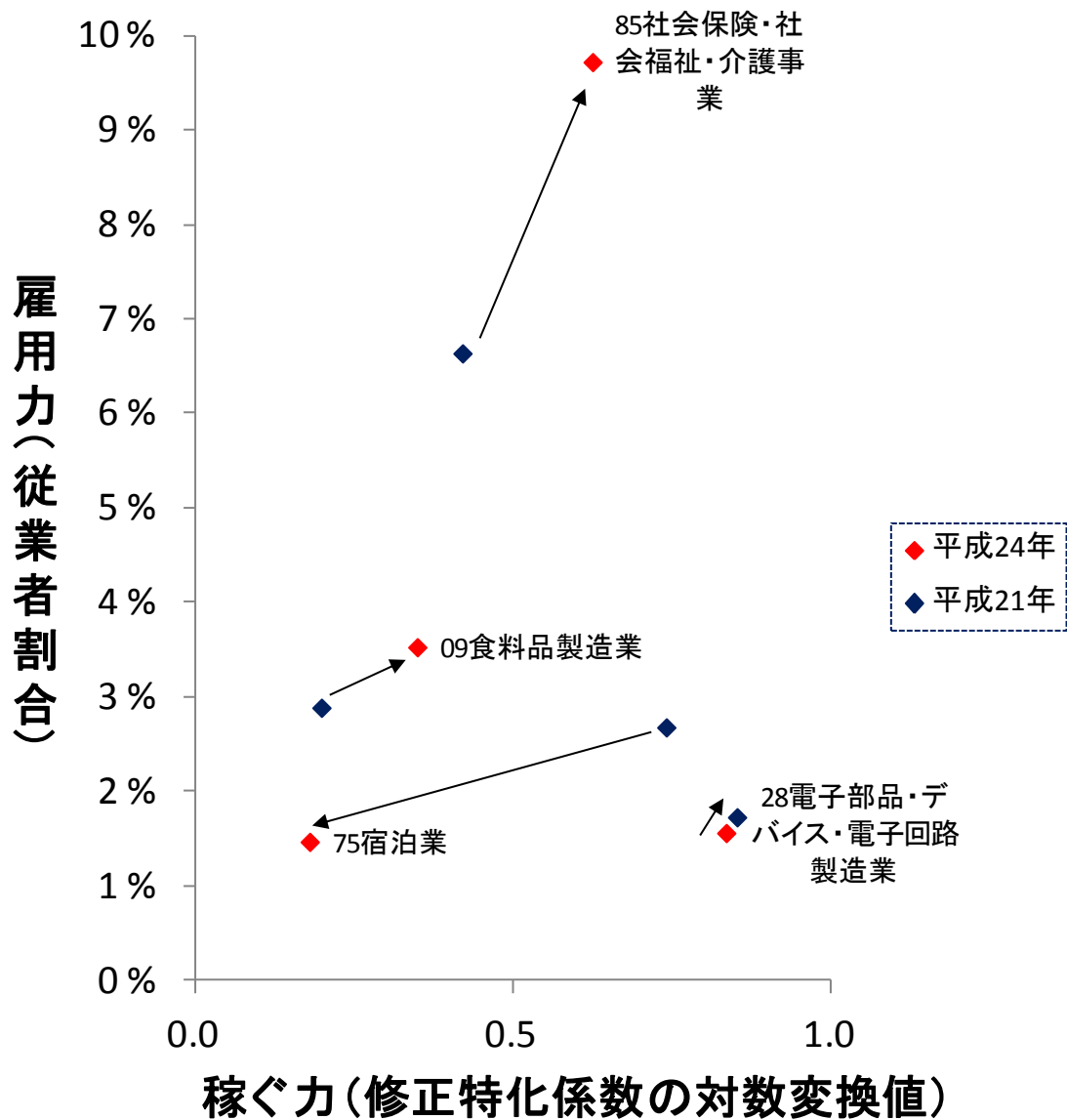
雇用力（従業者割合）

【注意】
「01農業」及び「02林業」には、
個人経営が含まれていない



※出典：総務省統計局「地域の産業・雇用創造チャート」

平成21年と平成24年の比較



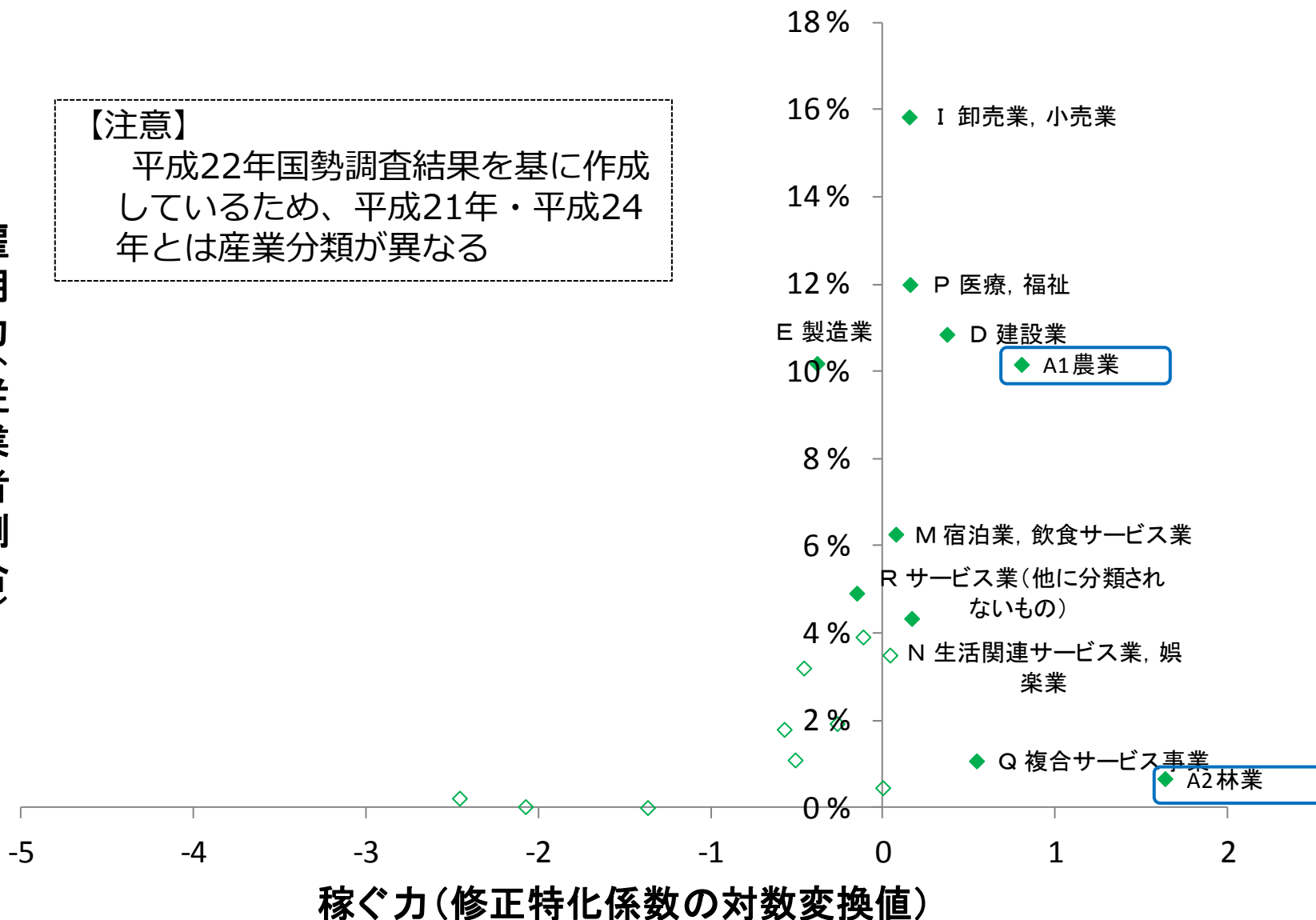


十和田市(平成22年)

雇用力(従業者割合)

【注意】

平成22年国勢調査結果を基に作成しているため、平成21年・平成24年とは産業分類が異なる



※出典：総務省統計局「地域の産業・雇用創造チャート」